



9月19日から25日までの7日間の日程で「日本そば博覧会in十勝新得町」、そのうちの24日、25日の2日間で「第15回しんとく新そば祭り」の開催が予定されています。テーマは「町一丸となってそばの名産地「新得」を全国にアピールしよう」で、キャッチフレーズは「新そばの 香りをたどって 新得町」です。

主催は「しんとく新そば祭り実行委員会」、共催に一般社団法人全麵協で、同実行委員会では開催期間中の入場者数を約3万人と見込んでいます。例年開催している新そば祭りが約2万人の来場者数ですから、いつもよりも多くの観光客の皆様が来る予定となっています。

日本そば博覧会は、平成4年に富山県利賀村で開催された世界そば博覧会がきっかけで、翌年に全国麵類文化地域間交流推進協議会

(一般社団法人全麵協の前身)が発足し、平成6年にこの組織が開催地の地元民を巻き込み、国内そば文化交流の一大イベントとして福島県山都町(現在は喜多方市山都町)で第一回目が開催されました。これまでに道内では幌加内町で4回、札幌市で1回開催されています。

山都町は、山都そばが有名で特に宮古地区では、そばの生産農家自らが自宅を開放してそば屋を営んでいる方が多いそうです。まさに地産地消ですよ。お客さんはその土地で作られたものをその場で食べられる幸せを感じ、生産者も自ら育てたものが、目の前でお客様の口に入る。「美味しいね」のその一言が生産者冥利に尽きるような気がします。



町長室から こんにちは

新得町長 浜田正利

現在、新年度の予算編成を進めており、一般会計の予算額は74億5千万円(66億4千万円)と比べると12%の伸びになり、2年続けて当初予算を伸ばす事になります。また、70億円台の当初予算は、ここ最近ではありませんでしたが、福祉、農業、観光などで生活に直接結びつく事業や地域活性化策などに積極的に対応したものです。なお、新年度当初予算のうち1億4千万円程度を町内の雇用対策として前倒しで3月中に執行していくことでも調整を進めています。

1月17日に京都市で開催されました全国都道府県対抗女子駅伝競争大会(9区間42.195km)に北海道チームの一員として新得中学校の伊藤穂乃佳さんが3区(3km)に出場。チーム一丸となって襷をつないだ結果、北海道は過去最高タイムで21位になりました。



また、24日にはアイスホッケーの第36回全国中学校大会に北海道代表として屈足中学校の木綿宏太君が所属する十勝連合Dチーム(屈足中、御影中、芽室中の合同)が出場し、見事、全国優勝を勝ち取りました。平成27年度を振り返ってみますと町内の小学生、中学生はスポーツに限らず様々な分野で活躍したと思っています。本人の努力に心より敬意を表するとともに、家族指導者、チームメイトなど関係する方々の協力に心より感謝を申し上げます。これから3月まで、まだまだ各種大会が開催されますので皆さんの応援をお願いします。

役場の職員の採用についてのお知らせと、それに伴うお願いをさせていただきます。今年の4月1日の採用については、将来の退職者の状況を勘案しながら7名の予定で手続きを進めています。また、正職員数については平成27年4月1日現在では11名でしたが、本年3月末の退職予定者を含め差し引き3名増の14名になる予定です。組織の活性化のためには新しい職員も必要ですが、今の役場は必要以上のスビードで退職、採用が進んでいると考えています。結果、職員の半数以上が10年未満の経験しかない状況にあり、この事は皆さんに対する行政サービスの質の低下につながる懸念があります。懸念が懸念で終わるよう、職員のレベル向上のために様々な取り組みをしています。町民の皆さんにおかれましても職員を育てていく事について今までのご協力を切にお願いします。

郷土の歴史を新得町郷土研究会がご紹介いたします。一緒に歴史の散歩に出掛けましょう。

しんとく歴史散 No. 5

「旧狩勝線と石切山」

新得市街から国道38号を狩勝峠の方向へ進み、6合目付近を右折して2合目ほど入ったところ(佐幌岳中腹)に石切山があります。ここには今も、岩石を採取した跡が残っています。

明治34年に旧狩勝線(新得～落合間・約28km)が着工され、この工事に石材を供給するため、工事に携わっていた関新太郎らによってこの石場が開発されました。石は花崗岩(御影石)で、岩盤の規模は高さ40尺余り(約12m)、幅70尺余り(約22m)といわれています。今日のようなクレーンやトラックがない時代のため、大きな石は修羅(しゅら)大きなせり)に積み込み、神楽算(かぐらさん)船を引き上げるときに使ったウインチ)で巻き寄せながら新内駅まで運び、鉄道輸送されました。石切山で採掘された石は狩勝トンネルや新内トンネル、新内駅ホームのほか、線路の擁壁、忠魂碑、

新得・新内・屈足小学校の門柱など多方面で使われてきました。また、北海道神宮の鳥居の笠石や北海道の三大名橋と謳(うた)われた釧路市の幣舞橋、旭川市の旭橋、札幌市の豊平橋にも使われるなど、産業と文化の発展に大きく貢献しました。

昭和2年に狩勝峠が平原の部で日本新八景に選ばれた時は、石切山で祝賀会が行われています。戦後は経済変動により石の需要が減り、昭和28年に閉山となりました。その後、昭和38年に新たな企業により再開が試みられましたが、経営は採算に乘らず翌年再び閉山となりました。

新得町教育委員会では、開拓や産業の振興に大きく貢献した石切山を後世に伝えていくため昭和61年10月、狩勝高原の梅園近くに史跡銘板を設置しています。

石切山

短歌

新得短歌会

- 初日の出おもわず留まり手を合せ
みんなの平和をねがいで 小野 恭子
- 無理をしてカッコつけても笑うだけ
できることしかできないものだ 岡田御狸裸
- 豆台風過ぎ去り老家の明け二日
子育ての日々回りくるなり 菊地 康雄
- 初春の睡月一日見た夢は
龍降臨輝く大地 荒木 伸一
- 冬の月速いながらの位置にいる
個展まじかの笑うすがたか 中井由利子
- 行く年の来る年の今、間にと
老妻と共にとホテルにと在り 小関 白潮
- 来るはずもなき賀状まつかたすみ
他界の園はいかがでしようか 斎藤美代子
- 陽は温くあまりにのどけき寒の入り
節会が来たかと鬼ぞ慌てる 樋口かおり

俳句

新得俳句同好会

- 初夢やS.L運転やってゐた
片桐 波月
- 初日の出御神くじ引いて感喜の声
丹羽 鶴松
- 陽照りの窓雪解に惹かれペンを執る
斎藤 青苔
- 牛の餌おこぼれひろう寒すずめ
八木 育子
- 肩上がり癖字で届く年賀状
月井 愁峰
- 月遊ぶ深雪の里の深眠り
高橋 民女
- 新幹線二分の壁や春の雪
大崎かずお
- 晴れるほど風の冷たき日の出かな
袴田ゆき男
- 昭和より変わらぬものに雪ダルマ
中島 土方